# 13［随筆］ようこ『世間のドクダミ』

　あるとき電車に乗っていたら、目の前に中学生くらいの女の子と、私より若いであろう母親が立っていた。二人とも小ぎれいな格好をしている。二人の話が耳に入ってきたのを、何となしに聞いていたら、「本って高いよね」と女の子がいう。すると母親も、「そうなのよ、本は高いのよ。買う気にならないわ」といっている。

　①私は世の中で本ほど安いものはないと思っていたので、まさに驚くしかなかったが、彼女たちはどういう理由か、本は高いと連発しながらうなずき合っている。彼女たちは紙袋を持っていたので何気なく見たら、それはユニクロの紙袋だった。私もユニクロで服を買うし、確かに安い。でもそれと本とを比べられてもねえといいたくなる。ユニクロの衣類と同じように、五百円、千円で本は買える。いくらａホウセイがよくても、衣類は一ｂショウガイ着続けることはまずできない。しかし本で得た知識は一生、頭の中に残る。自分のものになるという点では、本はものすごーくお買い得な商品なのに、②彼女たちの基準はそうではない。いくら本を読んでいても外からわからないし、お金をかけているかどうかもわからない。前にも書いたが、とにかく中身ではなく外見だけ重視。ｃケイタイ電話の使用料は一万円、二万円と払っても、五百円の文庫本すら買おうとはしないのだ。私は本が好きで小さいころから読み続けていたものの、本を読む子はいい子という考え方は大嫌いだった。だいたい私がいい子ではなかった。しかしなかにはめてもらいたくて、「私はたくさん本を読んでいます」と妙にアピールする子もいたりして、胸くそ悪い思いをしていた。「あんな奴とは違う」といつも感じていた。私はいい子ぶりっ子したくて本を読んでいたのではない。面白く、楽しいから本を読んでいた。ただそれだけだった。物書きの仕事をするようになって、雑誌でよくやる企画だが、「若い人にお薦めの本を紹介してくれ」といわれて、最初の一、二回は引き受けたが、③その後は全部断るようになった。自分が本を読みすぎて、実体験が足りなかったという後悔があったからだ。私は外に出るタイプではなく、家でこちょこちょと過ごすのが好きなタイプだった。読書、手芸などをしていたら、外に出て何かをするｄヒマがないし、興味もなかった。しかし男の子と付き合う本を読むよりは、実際に付き合うほうがいいだろうし、旅行の本を読むよりは、実際にその場所に行ったほうがいいだろう。私にはその行動力が足りなかった。だから本を薦めるよりも、とにかく何でも体験したほうがいいのではと考えたからだった。しかし最近は、④考え方が違ってきた。今の人は経験から何も学ぼうとしない。ただ目の前を現象が通り過ぎるだけで、自分なりの考え方など何もない。両目はただ開いているだけで何も見ていない。ガイドブックで見た写真をただ確認し、ｅメンゼイ店や有名店で買い物をすればそれで満足といった具合である。失敗して、少しは反省したかと思っても、同じ間違いを繰り返す。反省も緊張感もなく、動物のほうがよっぽど経験をかし、反省もする。そういう頭をつかう気がない人たちに、本を読めといっても無駄だろうから、私の中ではしようがない人としてひとりにして、⑤静かに見捨てている。

問１　二重傍線部ａ〜ｅのカタカナを漢字に直せ。 2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　本文は四段の構造になっている。ａ第二段、ｂ第三段、ｃ第四段はそれぞれどこからか。最初の五字で答えよ。4点×3

ａ〔　　　　　　　　　　〕

ｂ〔　　　　　　　　　　〕

ｃ〔　　　　　　　　　　〕

問３　傍線部①と私が思った理由を二〇字以内でまとめよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　傍線部②「彼女たちの基準」とは何か。簡潔に答えよ。6点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部③の理由として最も適当なものを次から選べ。5点

ア　最近の若い人は、「本は高い」ということを思っており、いくらいい本を薦めても買わないから。

イ　自分は本を読みすぎて実体験が足りなかったが、若い人は実体験が豊富で本など読む必要がないから。

ウ　私のように家でこちょこちょと過ごすのが好きなタイプの人にしか、私が薦める本は合わないと思うから。

エ　自分は本を読みすぎて実体験が足りず、若い人は本を読むよりは実体験したほうがいいと考えたから。

オ　読書や手芸などしていたら外に出るひまもなくなるし、興味もなくなり、行動力が足りなくなるから。

〔　　　〕

問６　傍線部④とあるがどのように変わってきたのか。最も適当なものを次から選べ。5点

ア　今の若い人は経験から何も学ぼうとしないから、実体験しても無駄だということがわかってきた。

イ　若い人は有名店などで買い物すれば満足であるから、それ以上の体験は身につかないとわかってきた。

ウ　経験から何も学ばず頭をつかう気がない人には、いくら本を読めといっても無駄だとわかってきた。

エ　若い人よりは動物のほうがよっぽど経験を活かしているので、若い人は気の毒だと思えてきた。

オ　失敗し反省したかと思ってもまた失敗をする若い人よりは、動物のほうがましだとわかってきた。

〔　　　〕

問７　傍線部⑤には筆者のどのような思いがあるか。最も適当なものを次から選べ。5点

ア　失望　　イ　　　ウ

エ　　　オ　悲哀

〔　　　〕

【解答】

問１　ａ縫製　ｂ生涯　ｃ携帯　ｄ暇　ｅ免税

問２　ａ＝私は本が好　ｂ＝物書きの仕　ｃ＝しかし最近

問３　本で得た知識は一生自分のものになるから。（20字）

　　　（傍線部の内容がなければ×）

問４　外見を重視すること。

問５　エ

問６　ウ

問７　イ

■覚えておきたい語句

□7　縫製……………………ミシンなどで縫って作ること。

□24　免税……………………税金を納めなくてもいいこと。

〔要　約〕

《話の流れを整理しよう。本文は四段構成になっている》

［Ⅰ］段落…①〜④　　［Ⅱ］段落…⑤〜⑥

［Ⅲ］段落…⑦〜⑧　　［Ⅳ］段落…⑨〜⑪

⑥⑧⑩⑪の「筆者の思想・考え方」を中心に要約しよう。

　　　　↓

私は本が面白く、楽しいから読んでいたが、自分の実体験不足の後悔から本を読むより何でも体験したほうがいいのではと考えた。しかし、今の人は経験から何も学ぼうとしないので本を薦めても無駄だろうと諦めている。（100字）

〈筆者＆出典〉群ようこ（むれ・ようこ）一九五四年（昭和29）東京都生まれ。作家、エッセイスト。日本大学芸術学部卒業。一九八四年『午前零時の玄米パン』でデビュー。ほかに、『ミサコ、三十八歳』『かもめ食堂』『それなりに生きている』『ぎっちょんちょん』『母のはなし』『れんげ荘』など多数。本文は、『世間のドクダミ』（ちくま文庫、二〇〇九年）より。

【読みのセオリー】

★随筆の読み方―筆者の意見を読み取る

　随筆とは、見聞したことや心に浮かんだことなどを、気ままに自由な形式で書いた文章である。

　しかし随筆の中には、起承転結や、序論・本論・結論などの、きちんとした段落構成をもち、論理性の高いものもある。気ままに自由に書くという随筆ではあるが、この場合は筆者のメッセージ性は強い。そのために、論理的な文章であることが多く、接続語や論理性に着目して筆者の意見を読み取ることが重要になる。

■読みのセオリー［実践］随筆の読み方　筆者の意見を読み取る

問５「若い人にお薦めの本を紹介」する企画を、「全部断るようになった」理由を、本文中から探して抜き出そう。

［１　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

という後悔があったから。

［２　　　　　］（帰着の接続詞）

本を薦めるよりも、とにかく

［３　　　　　　　　　　］

したほうがいいのではと考えたから。

問６

［４　　　　　］（逆接の接続詞）

最近は、「考え方が違ってきた」理由を述べている文に着目しよう。

〔解答〕　１（自分が本を読みすぎて、）実体験が足りなかった　２だから　３何でも体験　４しかし

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問３

４〜５行目「彼女たちはどういう理由か、本は高いと連発しながらうなずき合っている」とあるが、どういう理由か、三五字以内で答よ。

［答］　本を買うよりもユニクロで服を買う方が安く外見が飾れるという理由。（32字）

　　　　本を買うよりもユニクロで買い物をする方が安く外見が飾れるという理由。（34字）

＊差し替え

問７　傍線部⑤には筆者のどのような思いがあるか、漢字二字で答よ。

［答］　諦観（達観・諦念）

＊新問

問８　空欄Ａ・Ｂに入る最も適当な言葉を次から選べ。（Ａ８行目「しかし」、Ｃ21行目「だから」）

　ア　また　　イ　ところで　　ウ　だから　　エ　たとえば　　オ　しかし

［答］ Ａオ　　Ｂウ